

すずかんの

医療改革の「今」を知る

問われているのは、
経済危機下における
医薬品供給の安全保障

第42回

昨

年12月、突然届いた一枚のFAXにより、医療現場は騒然となりました。骨髄移植に不可欠な医療器具である骨髄フィルターの供給停止の知らせでした。送り主は、器具を日本で唯一扱うバクスター社です。

発端は米国の経済危機でし

た。イリノイ州の米バクスター本社が骨髄フィルター事業から撤退、引き継いだ投資会社は新会社を設立し、経費節減のため工場をドミニカ共和国に移転しました。結果、審査当局の承認を新たに取得

するまでの1年弱の間、供給停止となってしまったのです。

翌々日には読売新聞でも報道され、移植を予定あるいは希望する患者・家族の方々に大きな衝撃を与えました。

骨髄フィルターは骨髄提供者からの骨髄採取時に使用されますが、準備期間を含め予

定日の1カ月前には確保されていないかもしれません。毎月平均150人、年間では2千人の方が骨髄移植により命を救われている事実を考えると、一刻も早く対策を講じなければ、現場が大混乱に陥ることは必至でした。

いち早く動いたのは、市民

団体でした。NPO全国骨髄バンク推進連絡協議会の大谷貴子会長は、厚労省に対し、在庫不足に関する迅速な情報公開と、未承認の代替品（バイオアクセス社）使用による患者負担増加の回避を求め、署名活動を開始。会長は、自身も骨髄移植により白血病が治癒し、後にわが国の骨髄バンク設立に奔走した方です。

私が幹事長を務める医療危機議連も相談を受け、1月23日には尾辻議員、仙谷議員とともに、舛添厚労大臣に陳情を行いました。署名数も瞬く間に6万5千を超え、厚労省や骨髄移植推進財団も重い腰を上げて、代替品の緊急輸入

と保険承認に乗り出しました。今回のケースは、経済危機が医療現場に飛び火したひとつの例、氷山の一角に過ぎません。実際、抗がん剤チオテパも製造中止に陥り、代替薬によつて事なきを得ています。これは医薬品・医療機器に関する危機管理の問題です。となれば、その道のプロ集団たるPMDAが、代替品情報をあらかじめ平時から把握し、非常時には供給確保を主導する体制を整備すべきです。法改正に向け、我々も努力を惜しみません。

医療現場危機打開・再建国会議員連盟幹事長、
中央大学公共政策研究科客員教授、参議院議員

鈴木 寛



すずき・かん ●通称すずかん。1964年生まれ。慶應義塾大学SFC環境情報学部助教授などを経て、現職。教育や医療など社会サービスに関する公共政策の構築がライフワーク。